



観音様のこころとは？
オッパイを飲ませている
お母さんの笑顔と
見返りを求めないこころ

四季彩々

NO.24 2009年 1月号 隔月発行
発行 全日本年金者組合 岐阜県本部
岐阜市美江寺町2-1教育会館内 TEL 058-266-0184
編集責任者 上 宗治
土岐市妻木町3247-195 TEL 0572-57-3250

11月27日・28日 下呂の寿々波において 08年度 全県支部交流集会 が開催されました



多治見支部のズンドコ節に合わせての踊り

今年には土岐支部の後期高齢者医療制度の不服陳述をされた4人の活動報告、翌日は多治見支部の3人の方の仲間づくりの意外な活動報告でした。59人の参加者は生々しい報告に聞き入っていました。夕食懇親会では、各支部から歌、寸劇、赤い腰巻を見せびらかしての盆踊り、さらに月光仮面の歌に乗り風呂敷に包まった勇ましい月光仮面が登場しました。ワンヤワンヤの喝采が上りました。



各務原支部の永治さんの月光仮面の踊り

学びあうことも、楽しみ遊ぶこともトップレベルの豊かさがありませんでした。

生きがいの「遊びと学習」を大事にし組合員2000人をめざします。
気軽に話せる仲間の広がり、年金者組合の要求実現の力になります。
13支部の力を合わせれば、大きな波になり、岐阜県議会にも影響を与えることができ



年金者組合県委員長
長谷川金重さん

明けまして
おめでどうございませう

去年の全県支部交流集会は感激の連続でした。楽しい行事や支部・分会・班会活動が生きていになり、楽しく仲間を増やした経験など、ユニークな発言が盛りたくさんありました。
今年、この成果を全組合員が共有して大きな年金者組合をつくりたいと思います。
年寄りだけでなく、若者の雇用や生活も、すさまじい程、貧困化されています。若者にも応援して年金者の要求を掲げます。
*年金を3%引き上げよ。
*年金月額8万円に満たない無年金・低年金者に、8万円に達する額を上乘せしめて支給させる。この要求を知事選挙にも向けて勝ち取りましょう。

お得な話



労働共済「助け合い介護サービス」

介護保険制度があっても、利用料の1割負担が重くて必要な福祉用具のレンタルをガマンしている要介護者がたくさんいます。

労働共済は、そんな仲間を応援するために、在宅福祉用具の利用の際に、利用者負担を給付する介護サービスをつくり、今年1月1日から運用開始しました。

ケアプランで「在宅福祉用具の利用が必要」とされた方が利用できます。共済会員・その配偶者および、その親戚(同居を問いません)、その他共済会が認めた方が利用できます。介護についての相談も受けられます。

介護費助成サービス

●どんなときに利用できますか？

介護保険制度で、要介護の認定を受け、ケアプランで福祉用具の利用が必要とされたとき

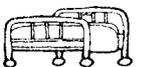
●どんな人が利用できますか？

労働共済加入者本人、配偶者、3親等以内の親族、年金者組合員

●どんなメリットがあるの？

介護保険ではサービス費用の1割が利用者負担となります。この自己負担分を加入者に助成給付することにより、自己負担をなくします。

※詳細は年金者組合役員に問い合わせてください。



年金者組合は楽しい♡

西濃支部

藤本 由紀子

昨年4月に年金受給者にデビューした私です。

9月の支部執行委員会の頃から「県交流集会」の参加について提案がありました。執行委員会で沈黙の私でした。

初参加の全県交流集会

ところが執行委員会に、たまたま欠席しての旅行先に参加依頼。私は「参加命令」に感じました。それで、初めて「全県支部交流集会」に参加することになりました。

気乗りがしないままの参加でしたが、現職の頃の先輩たちとお会いでき、懐かしさがいっぱい楽しい気分が参加することができました。また、同室の方の一人は、参加最高齢の永治幸枝さん。夕食交流会で

「月光仮面」を踊られるとのこと。本部の村瀬さんと一緒に「月光仮面」の替え歌(9条を守る)を歌っての応援となりました。永治さんの明るさとエネルギーに感動。平和な社会への心意気がそうさせているのだと思います。

同室のお二人だけでなく、参加の方たちの明るさとお年を感じさせないエネルギーに感動の連続でした。地域では「老人会」に入られることとなり「年寄り」に抵抗していた私ですが、この交流集会に参加して「年寄り」もいもんだ。この方たちのような明るさと元気と未来への希望を持ち続けられる年寄りになりたいと思いました。

話すことができました。全県交流集会に参加したお陰です。元氣のやる楽しい集会でした。ありがとうございます。

訃報

山本喜久男さん 逝去

病氣療養中 11月27日 77歳
岐阜県年金者組合で大きな貢献をしてこられました。
ご冥福を心からお祈りします。

この歳になっても、「おめでどう」という意味が分からない、という年賀状が来ました。トシが変わる「だるうか」それとも「いい事を作り出す」変わり目の「区切り」だるうかと自問がつづつてありましたが、なにげなく使っている言葉にも疑問をもたれてみましたが、「いい事があるだるうか」は天から降ってきて欲しい願望です。おいらにもありますが毎年ハズレます。「いい事を作り出す」は積極的に働きかけることになりませんがシンドイ、だから新年にふるい立たせるの「区切り」は人生の一年毎の節。竹のように風雨にさらされても節があれば、しなやかなゆれる事があっても強く育ち存在を示せる。誰でも人生の節々で強くなつて存在を示している。竹は節のときから節があるが、人間は自分でつくる。新しく進歩しようとする。そうでないとフシだらになるよ。存在を示さなければ娘捨山に捨てられる世の中です。年越し派遣村は息苦しい若者の実態を表しています。まじめに働いても、有名な大会社に勤めていても、いっとうなるか分からない世の中です。いい事を作り出すことは楽ではないが若者、苦境にいる人のことも考えて、いい事を作り出したい。そしてホラも吹きたい。

年金者組合 女性の暮らしのアンケート

前号の続きです。アンケート回答からのごく一部の転載です。

- お金をくずすやとすぐになくなり、年金だけで何とかやって生きたいと思っても、ドンドン支出がかさみ困っています。
- 介護保険はいつ私の使う番が来るのか分からないのに年金からドンドン引かれて、いやだなと思っています。
- 年金者組合に加入して種々情報が得られるので大変良かったとおもっています。
- 夫が突然重度の障がい者(一級障がい者)になってしまったために、自分の事が何もできなくなってしまった。
- 福祉施設の入所者が安心して生活でき、働く人も希望を持って働けるように国が責任を持って欲しい。
- 私は91才のおばあちゃんです。90才代に入ると五感すべてが衰え始め、特に拡大鏡片手に持ちながら書く文字は、行間は不揃い、判読できるかと案ずる今日この頃、情けなくなります。何かのお役に立ちたく「後期高齢者医療制度」の署名を近所の方々にお願いし、たくさんの署名をしていただきました。
- 楽しいことを考えます。
 - ①歩けないよりマシ。②施設に入っているよりマシ。③人々の顔が見られることが良い。④お話が皆さんとできるが良い。⑤おしめを当てているより良い。⑥食事が自分でおいしく食べられる



老木のひとり琴 ④

戦後、街角で白衣の傷痍軍人をよく見かけた。戦闘帽をかぶり、アコーディオンやハーモニカを演奏し、あるいは松葉杖をついて、募金を訴える姿があった。その傷痍軍人の前を自衛隊員が通っていく一枚の写真を覚えていた。その写真には「卒業生と新入生」と題がつけられていた。

昨年の十一月、「九条の会・おがき」主催の「アメリカばんざい」という映画を見た。その映画監督の「戦争の入り口と出口を描きたかった」という言葉に、あの「卒業生と新入生」という一枚の写真がダブって映った。徹底的に人殺し集団の一員に仕立て上げられる新兵(新入生)とイラク戦争で心に深い傷(PTSD)を負い、帰国しても仕事がなくホームレスになる帰還兵(卒業生)の姿が描かれている。

卒業生と新入生

昨年、米軍帰還兵を扱ったNHKスペシャル「戦場 心の傷」兵士はどう戦わされてきたか」で、このPTSD(心の外傷後ストレス障害)という言葉を知った。戦闘マシンに仕立てられた兵士が背負う「殺されることへの恐怖」「人を殺したことへのおびえ」という深い心の傷といったらよいだろうか。五十年前に見た傷痍軍人も、外傷だけではなく、多分にこの心の傷があったに違いないが、現代の戦争がもたらす心の傷は、比較にならないほど深い。

一九三〇年代のはじめ(その頃私は生れた)、不況の中、日本は戦争への道を突き進み、多くの「新入生」と「卒業生」が生れた。今の様子は、その頃と似ているという人もあるが、今は、九条があり、平和を願う大きな力がある。「九条」という札(ふだ)で、戦争への道を封印しなければと思う。

岐阜 福井信郎

新しい仲間の紹介

11月と12月の組合員の加入者です。

支部名	山田 睦子(10月) 松尾 洋子(10月)	
各務原	可 児 関 秀樹	
多治見	坂崎 善三 前田 治良 北原 和子 堀越トシ子 浅井 睦夫 堀 逸郎 湊谷佳代子 水野かずゑ 西村久子	
土 岐	牧野 勝芳 水野小夜子 藤岡 勲男 中島二一 加藤 澄子 知原千代子 中島すみゑ	
恵 那	荻野 静枝 加古満寿雄 坪井 利登 早川 勝子	

多治見支部 遠山房江
編集部 寄稿をお待ちしています!

雷鳥と光の走る夕方待ちの雨が追いかけて来る純白の朝霧満ちぬ山を隠し森をかくしてこの山荘も山棚のクマ笹群れの露の葉が光と交はす朝のざわめき

雷鳥と光の走る夕方待ちの雨が追いかけて来る純白の朝霧満ちぬ山を隠し森をかくしてこの山荘も山棚のクマ笹群れの露の葉が光と交はす朝のざわめき

十一月、十二月は秋野菜を収穫する時期である。大根、白菜、カブ、里芋、キャベツ、レタス、ブロッコリー、ネギ、ほうれん草などを畑で穫ってきて早めに食している。例年に比べ出来が良かったのは里芋とカブで、里芋は根元に何度か水をやった成果で芋が沢山ついた。カブは防虫ネット効果で虫に喰われなかつた。

私の住む寒冷地ではいかに野菜を保存するかが問題となってくる。大根は畑に穴を掘って埋めておいて必要な時に掘り出す。白菜は十一月下旬、軒下に根元を上にして約一週間日陰干しした後、新聞紙に包んで保存している。里芋は一度に掘り出さずに必要な量だけ掘っているが年内が限度である。

試行錯誤の野菜づくり ③

サツマイモは寒さに一番弱くて、いろいろ工夫したが保存も出来なくて、十二月九日に畑から掘ってきたのが最後であった。

昨年失敗した冬越しの作物タマネギは苗を買ってきて十月三十日に植えた。今度は植え方に留意して棒穴を作り、苗を入れて周りの土を固めて倒れないように丁寧に植えた。今のところほとんど枯れることなく育っている。春が楽しみです。エンドウは播種時期が早いと芽が伸びすぎて冬越し出来ず、遅いと芽が出ないので難しい。私は近所の人に聞いて十一月十二日に播いた結果、二センチ位で丁度いいのではと思っ

恵那 加藤昌宏

飛騨支部 坂下行雄

高い山から紅葉が下りてくる10月半ば、飛騨の女工が信州のキカヤへ働きにいった難所、野麦峠の旧道を歩いた。

野麦の集落から車道を7百ほど歩くと、旧道にはいる。谷川沿いに黄色主体の紅葉をながめ、せせらぎのリズムに足も軽やかであった。谷川を外れて山路に入ると坂である。杖を頼り足も重く、息もあらくなる。一行の足でまといになるまいと必死になり、75歳の体を持ち上げて歩く。道はさらに険しく、疲れてふらつと体が揺れるところを、満身

「老人哀史」野麦峠を歩いて

あえぎあえぎ、やつの思いで一つの目印でもある「地藏堂」に着いた。

ここから道はやや平坦になり、初冠雪の乗鞍を眺めながら歩く。

病に倒れ、兄に背負われて

峠を越える途中で「あゝ飛騨が足になつて

見える」と一言、息絶えたと云う女工「政井みね」の墓のある頂上に着く。

絹は輸出して外貨を稼ぎ、軍備を整えていった。女工を犠牲にして、ついに戦争によって滅びる国へと進んでいった。当時の日本政府と、現在の

国にしようと思つた憲法改悪に急ぎ足になつて

「女工哀史」ならぬ、まさに「老人哀史」である。

お助け小屋から県境の分かれ道に来ると、信州や飛騨の看板の文字は消えて、松本市、高山市を示す矢印が目立った。市町村合併が看板からも人々に残すべき「峠」の見てきた歴史から目をそらせようと、しているように思える。

そういうえば道案内には「糸姫の道」と書かれ、「姫」と美化された、歴史を呼び起こす「女工」の文字は見当たらなかつた。

